

令和7年度
第50回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール
入賞作品集



愛媛県農業協同組合中央会

第50回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画愛媛県コンクール入賞作品 目次

1.	作文・図画愛媛県コンクールの概要	1
2.	県知事賞 受賞者	3
3.	【全国コンクール】県内受賞者	4
4.	作文部門 入選作品集（敬称略）	5

【作文 第1部】（小学1～3年生）

金	賞	今治市立日高小学校	1年	あお青	やま山	り莉	こ子
銀	賞	今治市立清水小学校	2年	あ阿	べ部	ほ穂	の子
銅	賞	松山市立窪田小学校	3年	お越	ち智	ま万	お桜
優	秀	西条市立大町小学校	3年	たち立	ばな花	しょう翔	た太
〃	〃	松山市立北久米小学校	3年	ふく福	やま山	ゆい結	な菜
〃	〃	今治市立常盤小学校	1年	こん近	どう藤	けい慶	し志

【作文 第2部】（小学4～6年生）

金	賞	今治市立富田小学校	5年	なか中	にし西	めい芽	こ子
銀	賞	今治市立日高小学校	4年	とよ豊	しま島	ゆう優	し志
銅	賞	今治市立吹揚小学校	5年	まつ松	もと本		りょう遼
優	秀	今治市立日高小学校	6年	かた片	やま山	たか敬	まさ誠
〃	〃	今治市立波方小学校	5年	もり森	やま山	り凜	の乃
〃	〃	松山市立北久米小学校	4年	とみ富	た田		じょう丞

【作文 第3部】（中学1～3年生）

金	賞	西条市立東予東中学校	3年	たか高	はし橋	はる晴	か香
銀	賞	松山市立南中学校	3年	わた渡	なべ辺	ち依	か花
銅	賞	宇和島市立津島中学校	2年	まつ松	した下	あい愛	な奈
優	秀	新居浜市立東中学校	2年	かど角	や谷	あや綾	か香
〃	〃	宇和島市立城東中学校	1年	なか中	むら村	りゅう琉	せい聖
〃	〃	西条市立河北中学校	1年	まき槇		しゅ珠	な菜

5. 図画部門 入選作品集（敬称略）……………25

【図画 第1部】（小学1～3年生）

金賞	伊方町立九町小学校	1年	やま 山	した 下	あが 有華	がさ 紗
銀賞	伊方町立九町小学校	1年	うえ 上	だ 田		いつき 樹
銅賞	西予市立宇和町小学校	2年	まつ 松	うら 浦		まな 愛
優秀賞	松山市立椿小学校	3年	やま 山	もと 本	かん 勘	た 太
〃	松山市立味酒小学校	1年	くり 栗	た 田	けい 敬	し 至
〃	西予市立宇和町小学校	1年	まつ 松	うら 浦		あん 杏

【図画 第2部】（小学4～6年生）

金賞	松山市立生石小学校	6年	もり 森		ゆ 結	き 希
銀賞	西予市立宇和町小学校	4年	まつ 松	うら 浦	おう 旺	すけ 佑
銅賞	今治市立清水小学校	5年	そが 曾我	べ 部	み 心	お 緒
優秀賞	松山市立椿小学校	6年	いま 今	むら 村	いく 郁	と 斗
〃	松山市立和気小学校	4年	や 矢	の 野	みか 実楓	こ 子
〃	西予市立宇和町小学校	4年	ふく 福	かわ 川	いち 苺	か 佳

【図画 第3部】（中学1～3年生）

金賞	東温市立重信中学校	2年	ふく 福	もと 本	さ 沙	え 恵
銀賞	今治市立日吉中学校	3年	や 矢	ぶき 茸	らん 蘭	な 奈
銅賞	今治市立伯方中学校	3年	あ 阿	べ 部	かな 彼	た 方
優秀賞	西条市立西条南中学校	3年	まつ 松	おか 岡	ゆ 由	き 季
〃	今治市立北郷中学校	3年	ふじ 藤	わら 原	ひ 日	いろ 彩
〃	松山市立三津浜中学校	3年	やま 山	もと 本	たく 拓	と 燈

第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画愛媛県コンクールの概要

1. 県募集要領の作成

J Aグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知することを目的に、J A全中が実施する作文図画全国コンクールに対応するとともに、本県として作文・図画愛媛県コンクールに取り組むこととする。

このため、令和7年5月9日に、第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画愛媛県コンクール募集要領を作成し、取り組みを行ってきた。

2. 後援団体の概要

後援はJ A全中において、文部科学省／農林水産省／こども家庭庁／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会（NHK）／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／(公社)全国学校図書館協議会／(公社)日本PTA全国協議会／(公社)米穀安定供給確保支援機構に依頼し、J A愛媛中央会として、愛媛県／愛媛県教育委員会に依頼した。

3. 応募状況

① 団体数：小学校	83校	②応募作品数：作文	591点
中学校	23校	図画	908点
合計	106校	合計	1,499点

4. 審査概要

審査員は、作文部門3名、図画部門3名の計6名。作品募集の締め切りを令和7年9月17日とし、作文部門については11月5日までを審査期間とした。また、図画部門については10月8日に審査を実施した。

《審査方法》

○作文部門○

- ・第1～3部の各部を各審査員が受け持つ形で作品を審査し、それぞれの部から金賞、銀賞、銅賞各1点、及び優秀賞3点を選出した。
- ・その後、各部の金賞作品を審査員全員が審査し、1点を県知事賞とした。

○図画部門○

- ・応募数の多い第1、2部について、学年ごとに各審査員が10点程度選出した後に、審査員全員で部ごとに金賞、銀賞、銅賞各1点、及び優秀賞を3点選出した。
- ・第3部については、応募数が少なかったため、審査員全員で金賞、銀賞、銅賞各1点及び優秀賞3点を選出した。
- ・その後、各部の金賞作品を審査員全員が審査し、1点を県知事賞とした。

《審査員》

部 門		所 属	役 職	審 査 員 氏 名
作文	1部 (小学1～3年生)	東温市立南吉井小学校	校 長	渡邊真由美
	2部 (小学4～6年生)	鬼北町立好藤小学校	校 長	山田 真理
	3部 (中学1～3年生)	愛媛県教育委員会 義務教育課	担当係長	福垣内あゆみ
図画	1部 (小学1～3年生)	宇和島市立二名小学校	校 長	二宮 茂樹
	2部 (小学4～6年生)	今治市立日吉中学校	校 長	村上 達哉
	3部 (中学1～3年生)	東温市立川内中学校	校 長	松本 俊秀

《審査結果》

目次参照

5. 表彰式の概要

「JA愛媛食農教育フェスタ2026」

○日 時：令和8年1月6日（火）10時30分～

○場 所：JA愛媛 8階 クリスタルホール

○参加者：受賞者及び保護者、学校関係者、関係団体、約60名

第50回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール 県知事賞 受賞者



作文部門 第3部 (中学1～3年生)

西条市立東予東中学校

3年

たか はし はる か
高 橋 晴 香

「当たり前のありがたさ」



図画部門 第3部 (中学1～3年生)

東温市立重信中学校

2年

ふく もと さ え
福 本 沙 恵

「食べる喜び」

【全国版】第50回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール 県内受賞者

(令和7年12月1日発表)



優秀賞 作文部門 第1部 (小学1～3年生)

今治市立清水小学校

2年 ^あ阿 ^べ部 ^ほ穂 ^この子

「わたしの朝ごはん」



優秀賞 作文部門 第3部 (中学1～3年生)

西条市立東予東中学校

3年 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{はる}晴 ^か香

「当たり前のがたさ」



優秀賞 図画部門 第3部 (中学1～3年生)

今治市立日吉中学校

3年 ^や矢 ^{ぶき}葺 ^{らん}蘭 ^な奈

「遠足の思い出」

第50回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール

作文部門作品



金賞

はじめての田うえ

今治市立日高小学校 一年

青山 莉子
あおやま りこ

わたしは、じいじのおこめでつくるおにぎりが大好きです。あさごはんでたべると「きょうも一日がんばるぞ。」と、げんきがわいてきます。まほうのおこめです。

ことはじめて、田うえをしました。せんせいはじいじです。田んぼの中は、ぬちゃぬちゃしてとろんとろんで、あるくだけでもたいへんです。それなのに、じいじはずんずんすすんでいきます。さすがせんせい、すごいなあとおもいました。いきものもたくさんいました。かえるやあめんぼはかわいけれど、大きなみみずはこわかったです。三本のゆびでなえをとって、うえていきます。ふかすぎずあさすぎずちようどいいかげんでうえるのは、とてもむずかしいです。おなじかんかくでまっすぐうえるのもたいへんでした。わたしのれつはクネクネ

してるけど、じいじのれつはまっすぐでもきれいならんでいました。じいじにしかみえないものさしがあるのかなあとおもいました。

しばらくすると、

「あとの二れつはまかせるぞ。」

とじいじがいました。うれしくてあしがかるくなつたきがしました。

うえたおこめは「にじのきらめき」というしゅるいです。かわいなまえのおこめがあるんだな、とおもいました。

田うえはたのしかったけど、とてもつかれました。こんなにたいへんだなんてしりませんでした。でも、いつもおかあさんが「さいごの一つぶまで大じにたべようね。」と喋っているいみがよくわかって、やってよかったです。

一か月たったなえは、あおあおしてふと大きくなっていました。わたしのうえたおこめも、じいじのおこめのように、たべた人をげんきにできるまほうのおこめにそだってほしいです。



銀賞作品

わたしの朝ごはん

今治市立清水小学校 二年

阿部穂の子

わたしが二年生になってすぐのころの朝ごはんは、小さいおにぎり一つとくだものでした。早おきがにが手で、おきてすぐあまりたべられなかったからです。クラスがえをしてから、あたらしいお友だちとよくけんかをするようになりました。ほんとうの心の中の気もちは、みんなとなかよくなりたいたいの、うまくいかない日がつづきました。

ある日の朝、ふりかけの小さいおにぎりがピカピカの白ごはんにかわっていました。おこめの一つぶ一つぶがひかかっていて、とてもきれいでした。ごはんのよこには、たまごやき、ウインナー、きゅうり、ミニトマト。わたしが好きなものばかりがならんでいました。お母さんはなにも言わなかったけれど、友だちとけんかをして、学校に行くことがすこしい

やになっているわたしを、元気にしてくれようとしていることにすぐ気づきました。

あたらしい朝ごはんは、思っていたよりたくさんたべることができました。元気よく、行ってきました、も言えました。学校でみんなといっぱいあそぶこともできました。でも、やっぱりけんかはへらないのです。一つだけかわったことがあります。朝ごはんをしっかりとべると、パワーがついたようにかんじはじめました。自分から、ごめんね、が言えることがふえたのです。まい日朝早くおきて、ごはんのしたくをしてくれる、お母さんのやさしさがパワーになるのです。

学校でなかなかおりができなくてかなしい気もちのときも、朝ごはんとお母さんがまもつてくれているようにかんじます。だからまたごめんねが言えるのです。

ごはんをたべること、体が大きくなるだけではなくて、気もちも元気になります。お母さんが作る朝ごはんは、元気が出るくすりみたいです。ピカピカのおこめさん、ありがとう。お母さん、ありがとう。



銅賞作品

おいしいごはんに感謝しゃ

松山市立窪田小学校 三年

越智万桜

「行って来ます。」

今日も、お父さんは、朝早くから仕事に行きました。お父さんの仕事は、のうぎょうです。主にお米を作っています。だから、毎日朝早くから、夕方おそくまで、はたらいています。どんなにあつくても、がんばっているお父さんは、とてもえらいと思います。わたしもときどきお手つだいに行っています。わたしもときどきお手つだいに行っています。どんな小さな仕事でもとても大へんだなと思います。わたしは、すぐつかれて休けいしたくなるけど、ずっとがんばっているお父さんは、すごいなと思いました。おかげで、いつも、おいしいごはんを食べることができます。わたしは、白いごはんが大好きです。とくにたきたてのごはんは、一

つぶ一つぶがふつくらしていて、もちもちで、もうたまりません。作文を書いている今も、想ぞうしただけで、食べたくなるほどです。そんなおいしいお米ができるまでには、すごく日数がかかるということも分かりました。まず、もみだねをまいて、なえを育てて、なえが大きくなるまでに田んぼのじゅんびをします。それから、田うえになります。田うえが終わってからも、毎日、田んぼの水を見に行ったり、草を取ったり、ひりょうをあげたり、いねが大きくなってお米になるまでには、まだまだ仕事がたくさんあります。それでやっと秋になると、いねかりをしてお米になります。食べ物がないとこまっっている人もたくさんいますが、わたしは毎日大好きなごはんを食べることができます。とても幸せだと思います。だから、なんでもむだにせず、大切にしたいと思います。今日も、おいしいごはんに感謝しながら、

「いただきます。」



優秀賞作品

みんなのお米作り

西条市立天町小学校 三年

立花 翔太
たちばな しょうた

ぼくは、ごはんが大すきです。おかわりもするようになりました。ぼくが、ごはんをいっぱい食べられるのは、おじいちゃん、おばあちゃんが、お米を作っているからです。家ぞくみんなで手つだいをしています。

六月に、田うえをしました。おじいちゃんとお父さんとお兄ちゃんが、じゅん番にうえました。

「ぼくもやりたい。」
と言うと、

「もうちよっと大きくなってからね。」
と言われました。ぼくが手つだったのは、なえについているたにしのたまごをとることです。

おいしいお米ができるまで、四か月かか

ります。おまつり前の十月ぐらいにいつもいねかりをします。いねたばをいな木にかけてほします。ほしたら、だんだん色がかわってきます。ぼくが去年手つだったのは、かりとつたいねたばをよせることです。たいへんでした。二週間くらいしたら、だっこくをします。だっこくとは、ほから米つぶをはずすことです。だっこくという言葉をお母さんが教えてくれました。おばあちゃん、おじいちゃんが、あせだくでやっていたおぼえがあります。

今は、田うえがおわったところです。あと三か月ちよっとで、いねかりをします。ぼくは、お手つだいがすきなので、いねかりが楽しみです。お手つだいをすると、みんながえ顔になり、いい気分になります。がんばって作ったお米ができたなら、大すきなお肉といっしょに食べたいです。あまい新米が今から楽しみです。これから、家ぞくみんなでおいしいお米を作っていきたいです。



優秀賞作品

ごはんの力

松山市立北久米小学校 三年

福山結菜

私の大好きなそ父母は、家から車で三分くらいの所に住んでいます。家が近いので、毎日遊びに行ってお話したり、工作したり、キャッチボールをしたりしています。

しかし、今年の六月にそ父がこしの手じゅつで入院してしまいました。お見まいに行くと、前より少しやせたそ父が、「ごはんしか楽しみがないんよ。」と言ってこんだて表を見ていて、学校で給食のこんだて表をチェックしている私と同じだとわらってしまいました。

そ父の入院中、りょう理好きのそ母がごはんをあまり作らなくなりました。すかすかの冷ぞう庫を見てびっくりした母が、時々おかずを持って行ってあげました。そ母は、

「人に作ってもらったごはんはおいしいね。」
と言ってよろこんでいました。

一か月後、そ父がたい院して、ばんごはんにしよう待してくれました。そ母は、「久しぶりに六合もお米をたいしてしまつたわ。」とわらいながら、たいめしをよそつてくれました。その時のたいめしがとてもおいしくて、お姉ちゃんといっしょにおかわりをしました。もりもり食べる私たちを見てそ父とそ母がともうれしそうだったので、私も幸せな気持ちになりました。

ごはんは、自分のために作るよりだれかのために作る方が、元気がわいてくると知りました。また、一人で食べるよりもみんなで食べる方が何倍もおいしくて幸せな気持ちになると思います。私はまだたまごやきしか作れないけど、もっと母やそ母にりょう理を教えてもらってみんなに食べてもらえるようになりたいです。

やせていたそ父の体重はみるみるもどつてきています。



優秀賞作品

ごはんだいすき

今治市立常盤小学校 一年

近藤 慶志

ぼくは、ごはんがだいすきです。とくに、おにぎりがすきでよくたべています。ぼくのおばあちゃんはおこめをつくっています。だから、たくさんたべられます。6がつに、おこめをつくるためのたうえをしました。いままではみてるだけでしたが、ことしはてつだってみることにしました。おおきなきかいでうえています。でも、はしっこはきかいではうえられないとりました。そこで、ぼくは、おとうさんといっしょにたうえました。はだしでなかにはいりました。たんぼは、どろどろのつちです。どろのなかにはいると、ぬるぬるでおもたいつちにあしがはまつてうごきにくかったです。ちいさなえをうえるのは、なかなかうま

くできません。みずがいっぱいあって、なえがじょうずにたたないのでむずかしかったです。すこしずつできるようになってうれしかったです。おわると、たんぼがみどりいっぱいになっていました。みずとたいようでどんどんおおきくなつてほしいです。8がつにおばあちゃんとたんぼをみにいくと、ぼくのせくらいにおおきくふとくなつていました。おこめになるまでには、もうすこしじかんがかかります。10がつになったらおこめができるよとおしえてくれました。おいしいごはんをたべるまでに、たうえやおせわなどたくさんのがたいせつなだとかんがえることができました。いねかりもてつだつておこめをじぶんでとりたいです。

ごはんをたべるのは、みえないところでがんばっているひとがいるとわかりました。おおきなこえで、いただきます、おいしいよといたいいます。そして、おいしいおこめをありがとうございます。



金賞作品

お米をとぐのが大好き

今治市立富田小学校 五年

中西 芽子

「めいちゃん、お米といどいてー。」

「えーよー。」

「何がいいー?。」

「そうやねー、八合ぐらいかねー。」

「おつけー。といどおねー。」

私は、お米をとぐのが大好きです。この前は、一しよ
うたきました。一しよとは、十合のことです。た
くさんあつて、びつくりしました。

「しゃかしゃかしゃかしゃか。」

「あー、気持ちがいいな。」

冷たい水としゃかしゃかの音にとてもいやされます。
おいしくなあれと思いながらとぎます。水を流す時
は、お米を流してしまわないうちに気をつけながら
流します。最初のころはたくさん流れてしまい、お
母さんに、

「あーあ、もったいないわい。」

と言われました。できるだけこぼさないように、手
をそえて水だけを流します。水を入れて、よごれだ
けをよく出してから、一回目と同じようにといで水
を流します。それを三、四回、くり返します。白米
というところの八という線のところまで水を入れた

ら、おかまを炊飯器の中に入れます。高速ともちも
ちにセットしてからスタートを押します。五十分ぐ
らいかかるので、その間に夕飯のお手伝いをします。
たけている間、湯気がたくさん出てきました。

「熱いけん、さわったらいかんよ。」

とお母さんが言いました。あまくていいにおいがし
ます。お茶わんを出していると、

「ピーッピーッ。」

と大きな音がしました。

「めいちゃん、ご飯がたけたけん、お茶わんについ
でおいで。」

ふたをあけると、つぶつぶの白いお米がもちもちご
飯に変身していました。おいしそうで食べてみたい
けどぐつとつばをのみこみます。仏だんや神棚にも
おそなえしました。たき立てのおいしいご飯を仏さ
んや神さんも食べるそうです。

「ご飯をついでいる時、私は、

「あーほつかほかで、おいしそやな。味見したい。十
合といだかいがあつてよかつたな。早く食べたいな。」
とつぶやきながらつぎました。みんなが集まって食
べ始めると、

「あー、このご飯おいしいね。芽子がたいたの?ほっ
かほかやね。」

と言いながら食べてくれました。私は、とてもうれ
しかったです。

私は、夏休み中、たくさんお手伝いをしています。
お米とぎも進んでして、もっとおいしいご飯をたき
たいです。



銀賞作品

特別なチャーハン

今治市立日高小学校 四年

豊島優志

ぼくは、ごはんの中でチャーハンがいちばん好きです。いろいろなおかずといっしょに食べるごはんもおいしいけれど、チャーハンごはんそのものがおいしくて、それだけで大満足できます。ぼくがチャーハンを好きになったのは、お父さんが作ってくれる「特別なチャーハン」がきっかけでした。

お父さんのチャーハンは、休みの日のお昼ごはん、たまに作ってくれます。

「今日はチャーハンにしようか。」

と言われると、ぼくは

「やったー！」

と大よろこびします。ぼくのお父さんは、チャーハンを作るのが上手です。フライパンをふる時の、カシヤカシヤという音や、油のいいにおいがキッチンに広がると、

「ああ、今日もあのチャーハンが食べられる！」
とわくわくしてきます。

お父さんは、玉ねぎやにんじん、ベーコンを小さく切って、フライパンに入れていためます。その時のおいしが、とてもいいにおいで、お腹がぐーっとなりません。そして、お父さんがごはんをフライパン

に入れると、パラパラになっておいしそうな音がします。お父さんは、ちよーどいいタイミングで卵を入れて、さっと混ぜてくれます。最後に、しょうゆをちよつとだけたらしめます。

チャーハンができるよ、お父さんは、

「できたよー！」

とよんでくれます。あつあつのチャーハンを口に入れると、たまごのふわふわと、ごはんのパラパラした感じがとてもおいしくて、幸せな気持ちになります。お母さんとお姉ちゃんも、

「おいしい。」

と言いながら食べていて、家族みんなでこにこしながら、お昼ごはんを食べる時間が、ぼくは大好きです。

チャーハンを食べながら、お父さんは、

「お米は、大事に育てられてるんだよ。」

と教えてくれました。田んぼで、がんばって育ててくれている人たちがいて、ぼくたちは、おいしいごはんが食べられるんだと知って、ぼくもごはんを残さないようにしないと決めました。

これからも、ぼくはお父さんのチャーハンを楽しみにしています。そして、いつか自分でも、おいしいチャーハンを作れるようになって、お父さんとお母さんに食べてもらいたいです。

お父さんが作るチャーハンは、ぼくの大好きな味だし、家族みんなで食べる時間も楽しいです。これからは、お父さんといっしょにごはんを作ったり食べたりするのが、楽しみです。



銅賞作品

伝えたい気持ち

今治市立吹揚小学校 五年

松本 遼

「米、持って帰れよ。」
田舎のおじいちゃんの家に行くと、いつも言ってくれます。ぼくたちは、「ありがとう。」

と、かん単に言っています。そして、それがあたり前だと思っていました。

ぼくは、五年生の一学期に社会科のじゅ業で米作りの勉強をしました。米作りのスタートは、選んだ種もみが三月にとどくところから始まり、九月から十月に稲かりをし、保管するまで続きます。ぼくは、米作りに半年以上かかることに、びっくりしました。それと同時に、おじいちゃんのことを思い出しました。

ぼくのおじいちゃんは、いっぱい病気をしました。入院もしました。だけど、かならずお米をくれます。お米のとどかなかった年はありません。おじいちゃんが田んぼへ行って、作業をしてくれているおかげです。

ぼくは、毎朝どんぶりいっぱい白ごはんを食べています。朝からペロリと食べられます。ぼくが体を

大きくしたい理由は、野球でボールを外野のおくまで飛ばしたいからです。ぼくは小学校一年生の時から、野球をしています。内野へのヒットは打てるようになったけれど、大きい当たりは出ていません。そのために毎日自主練習で、すぶりをしたり、羽打ちをしています。いっしょに練習してくれるお父さんは、

「毎日練習をしているから、体が大きくなるよ。いっぱい打てるようになるよ。」

とはげましてくれます。今年夏、ぼくはおじいちゃんたちと旅行に行きました。バスの中で、

「遼、お米食べよるか。」

と、おじいちゃんに聞かれました。

「いっぱい食べよ。」

と言うと、おじいちゃんはにっこり笑って、うなずいてくれました。ぼくは米作りの大変さを習ったので、お礼を言おうと思っただけ、はずかしくて言えませんでした。その代わりにぼくは

「野球の大会、見に来てね。」

と伝えました。おじいちゃんは、ぼくの野球の試合を見に来たことが、ありません。いつもぼくたちのために、米作りをがんばってくれているおじいちゃんに、ありがとうの気持ちをこめて、大きいヒットを打ちたいです。その時は、おじいちゃんに伝えられる気がします。

「おじいちゃんのお米を食べて、パワーがついてるよ。いつもありがとう。」



優秀賞作品

お米一粒一粒の大切さ

今治市立日高小学校 六年

かた やま たか まき
片山敬誠

ぼくは、ボーイスカウトの活動で、炊飯器を使わずにご飯を炊くということを体験しました。家では、炊飯器のスイッチを押せば当たり前のようにご飯が炊けますが、この日は水加減や火加減、時間の調整など、すべてを自分たちの手で行いました。なたを使って、まきを割るところから始めて、マツチで火をつけ、鍋の中の音に耳をすませたり、においをおいんだり、火を調整しながら待ちました。ここまでの手順でも普段やる機会が全くなかったので、少し手間取ってしまいました。ご飯が炊き上がったので、ふたを開けた時、湯気とともに立ちのぼる香りは、どこかやさしく、そして力強いものでした。

炊けたお米を食べる前に、ボーイスカウトの先づきが、

「ボーイスカウトには、食べる前にきまりがあるんだよ。食べる前に『いただきます』って言うでしょ？ それに加えて言う言葉があるんだ。」

と教えてくれました。続けて、

「手を合わせてください。一つ一粒のお米にもお百姓

さまの愛情がこもっており、一つ一粒のお米にも自然の恵みが備わっております。一粒残さず食べましょう。いただきます。」

と言いました。ぼくは、その言葉を聞いて、はっとしました。これまで、ご飯を食べるときにそこまで深く考えたことがなかったからです。お米は、農家の方が種をまき、草を取り、水を撒き、何ヶ月もかけて作ってくれた命の結晶です。また、自然の力がなくては育ちません。太陽や水、風や大地のすべての恵みが合わさって、ようやく一粒のお米になるのです。

この体験を通して、お米の一粒一粒に込められている農家の方の思いや自然の力を、あらためて感じられるようになりました。すごく小さな一粒のお米にも、たくさん命や思いなどが、詰まっていると思うと、よりいっそう丁寧に味わいたくなってきました。農家の方の愛情がこもっていることを考えながら食べると、すごくおいしく感じられました。「いただきます」や「ごちそうさま」の言葉にも、以前より深い意味を感じます。食事の前に手を合わせる時間も、命への感謝をあらわす大切な習慣なのだと思ってきました。

これから、お米一粒一粒を大切に、毎日の食事を大切にしていきます。そして、命を大切に、自然などにも「ありがとう」の気持ちを伝えることを忘れずに生活していきたいと思えます。



優秀賞作品

私のお米

今治市立波方小学校 五年

森山凜乃^{もりやま りの}

私は、お米が大好きです。なぜなら、お米はとてもおいしいし、私の大好きなお父さんが、一生懸命作ってくれているからです。昔は、私のおじいちゃんとおばあちゃんもいっしょにしていたけれど、今は、お父さんがほとんど作っています。

お米作りは、とても大変です。春ごろに田んぼをたがやすところから始まります。たがやした後には、田植機を使って、なえを植えています。秋になると、緑色だったなえが、小麦色になっています。そうすると、コンバインを使って、いねをしゅうかくします。そうして、お米ができあがるのです。

私のお父さんは、毎日、朝と夕方、田んぼの様子をみています。水がぬけている時は、いねが育たないので、水がぬけないように、板で止めるなどして、たいさくをしています。また、田んぼのそばにある川にゴミがあってもよくないので、見つけては拾って川をきれいにしています。今は、夏休みになったので私もお父さんといっしょに田んぼに行って、川とかにゴミがないか、田んぼに草がはえていないか

を確かめています。最近、田んぼに行くのが、ワクワク楽しみにになりました。

「りの、行くよー。」

この一言で、田んぼに行くのがわかります。私は、「はーい。」

と言って、田んぼに行くじゅんびをしています。田んぼに毎日行って、水がぬけていないかをお父さんといっしょに確認しています。

「今日は大丈夫だったね。」

と言って、家に帰ります。毎日行くようになって、田んぼのかんりはとても大変なんだと思うようになりました。毎日お父さんは、田んぼに行っていて、すごいなと思いました。私も、そんなお父さんみたいになりたいです。

今、全国でニュースになっていますが、お米が不足していて、スーパーに売られているお米の値段が高くて、なかなか買えないじょうきょうが続いています。びちく米が売られています。私は、お父さんに感謝しなくてはいけないなと思いました。また、お父さんが少しでも楽にできるように、お手伝いをがんばりたいです。

もうすぐ秋になります。しゅうかくの時が近づいています。しゅうかくをしたら、そのお米をたいて、おにぎりをみんなでぎって、外でおいしく食べるのが、今から楽しみでしかたありません。私が食べるお米は、世界一おいしいお米です。



優秀賞作品

おにぎりパワー

松山市立北久米小学校 四年

富田 丞
とみ た じょう

ぼくはサッカーをしています。サッカーの練習の前には必ず、お母さんが作ってくれたおにぎりを食べます。お母さんが作ってくれたおにぎりを食べる今日も練習がんばるぞー！とパワーがわいてきます。

ぼくは四年生になってお手伝いで、ご飯たきができるようになりました。夏休みになり、お昼ご飯の時間になったころ、

「暑くて元気でないねー。」

とお母さんとお姉ちゃんが話していました。ぼくは、みんなが元気になれるようにお昼ご飯はおにぎりを作ろう！と思いつきました。まず、お米を二合カップで計って、ていねいに二回洗います。お米は一つぶ一つぶ大切なので、こぼれないようにがんばりましました。お水の量もよし！、すい飯器のスイッチを押しました。待っている間、お母さんとお姉ちゃんは、「おにぎりが楽しみなー。」

と言ってくれました。おにぎりの具は何がいいか聞くと、梅ぼしがいいそうです。

ご飯がたけて、さあ作ろうと思ったけど、たきたてのご飯はアツアツでさわれません。お母さんが、

「ご飯を一度ボールにとって少し冷ましてからにぎるといいよ。」

と教えてくれました。手に水とお塩をつけて、がんばってにぎりました。はじめは手につけるお水の量が少なくて、手にご飯がたくさんついてしまいました。その手を見たお母さんは、大笑いしていました。手にしっかりお水をつけると、上手くできました。お力を入れすぎないように、やさしくにぎります。お母さんみたいに三角ににぎりたかったけど、むずかしくて丸のおにぎりにしました。のりをまいて完成です。

「いただきまーす！作ってくれてありがとう！」

おいしくできているか少しドキドキしました。お母さんとお姉ちゃんが、

「おいしい！おいしい！」

とパクパク食べてくれました。ぼくもいっしょに食べました。お母さんがおにぎりといっしょに食べられるように、野菜たっぷりのおみそしるを作ってくれていて、おにぎりと合って最高です。

ぼくが作ったたくさんのおにぎりはあつという間になくなりました。食べ終わると、みんなが笑顔になりました。おにぎりにはやっぱり元気になるパワーがあると思いました。次は、いつもお仕事で大変なお父さんにも作って、おにぎりパワーをあげたいです。

自分で作るおにぎりもいいけれど、やっぱりぼくは、お母さんが作ってくれるおにぎりがとても大好きです。これから、おにぎりパワーでいろんな事にちようせんしてがんばります。



金賞・県知事賞

当たり前前のありがたさ

西条市立東予東中学校 三年

高橋 晴香
たか はし はる 香

「ああ、ほんまにありがたいなあ。」
祖母のこの言葉を聞くのは何度目だろう。長期休みになると、私たちはお米を持って母の実家に帰省する。私と一緒に住んでいる、父方の祖父母が育てたお米だ。そのお米を渡すと、祖母は決まってそう言うのだ。

母方の祖父母の家は市街地にある。ショッピングモールなどが近くにあり、便利などころではあるが田畑は一切見かけない。一方で父方の祖父母と私たちが住んでいる地域には田畑がたくさんある。決して便利とはいえないが緑が豊かなところだ。つまり、私の祖父母たちが住んでいる環境はまるで正反対なのである。母方の祖父母は普段スーパーでお米を買っているらしく、私たちがお米を持っていくととても喜ぶのだ。

家の周りを見渡せば一面田畑が広がっている。私は生まれたときからこの環境で育ってきた。お米は常に身近にあるもので、それが当たり前だった。祖母の言葉を聞くまで、目の前に広がる田んぼで稲が育ち、そのお米を食べられることに「ありがたい」という感覚がなかった。だから初めてその言葉を聞いたとき、はつとさせられた。祖母のこの言葉がなければ、私はこんなにも大切なことに気付けなかったかもしれない。自分がいかに恵まれた環境にいるのか、そしてお米が身近にあることを当たり前だと思ひ、なんのありがたみも感じていない自分が恥ずかしくなった。

私の家では毎年、五月ごろに土を入れておいた苗箱に芽出した籾をまいて苗床をつくり、六月の初めに川から田んぼに水を引いてきて代掻きをする。六月中旬になると田植えをして、そのあとは稲

を消毒したり肥料をまいたり、成長に合わせて田んぼの水を調節したりしながら稲を大きく育てる。そして十月ごろによく稲刈りをする。毎年この作業の繰り返しだ。また、様子を知るために田んぼを見回りしなくてはならないし、今はほとんどコンバインという機械を使って行う稲刈りも、コンバインが使えない田んぼの端のほうは手作業で刈りとらなくてはならない。雨続きでなかなか稲が育たない年もあれば、ウンカという虫の被害に悩まされた年もあった。こうして書いてみると、お米をつくるのがどれだけ大変なのかがよく分かった。祖父母の苦勞をまじかで見えてきたはずなのに何も感じていなかった私が本当に恥ずかしい。私たちの食卓に毎日当たり前のようにお米が並ぶまでの過程には、祖父母の計り知れない苦勞と努力があった。

最近、私の中で当たり前前にお米を食べられることのありがたさを実感する機会が増えた。米不足のニュースをよく耳にするようになったからだ。そういえば前回母の実家に帰省したときに、祖母も最近お米が高いのだと嘆いていた。調べてみると、原因には去年の猛暑や水不足、農業従事者の高齢化や後継者不足が挙げられるらしい。だからこそ、このような厳しい条件下でお米をつくってくれている農家の方々に感謝してお米を食べなくてはいけない。そしてもう一つ、私たちに必要なのは農家の方々を支えることだと思う。祖父母ももう若いわけではないが、私にできることは手伝って、ことだろう。少ないかもしれないが、私にできることは手伝って、祖父母を支えるべきだ。今年も十月になればまた稲刈りが始まる。中学生になってから、部活や勉強で忙しいからと私は稲刈りに参加していない。今年は久しぶりに手伝いをして、少しでも祖父母の力になりたい。

この時期、夏の初めのころに植えた稲はすっかり大きくなり、私の家の周りにはあたり一面鮮やかな緑に染まる。風が吹くと、稲たちがこすれてさああと心地よい音を立てる。毎年何気なく見ていたこの景色も、祖父母の努力があつてのものなのだ。そう思うと、見慣れた緑がやけにまぶしく感じた。



銀賞作品

朝食を変えてからの私

松山市立南中学校 三年

渡辺 依千花
わたなべ いちか

毎日の食卓に当たり前に並ぶ「ごはん」。昔から食べてきたはずなのに、私は最近になって、その魅力に改めて気づかされた。きっかけは、朝食をパンからごはんに変えたことだった。

もともと私は朝食にパンを食べることが多かった。なぜならパンは手軽ですぐに食べられるし、いろいろな種類があって美味しいからだ。ごはんは何かと一緒に食べないと嫌だったので、朝、時間がない私にとって朝食はほぼパンだった。しかし、パンだと午前中にお腹がすいたり、授業中にぼーっとしてしまうことがあったりして、「なんだかうまくいかないな」と思うようになった。しかも、パンはすぐにお腹がすくうえに糖分も多いと聞いて、「ごはんの方が腹持ちがよくて、体にも優しく、健康的かもしれない」と思い、自分なりに朝食を見直してみることにした。

そこで、自分で朝食をごはんに変えてみた。すると、体がしつかりと動くような気がして自然と頭もすっきりした。腹持ちもよくて授業にも集中できるようになり、ごはんは、体の中からしつかり元気をくれる食べ物だと実感した。朝からごはんを食べることで、その一日を前向きに過ごせるようになった。

それから、私はごはんの魅力にどんどん気づくようになった。ふと考えてみると、ごはんを毎日食べているのに、なぜ飽きないのか。すごく不思議だったけれど、その理由はすぐにわかった。ごはんは味がシンプルだからこそ、どんなおかずにも合う。和食はもちろん、洋食や中華でも、ごはんは自然になじむ。さらに、おにぎりやチャー

ハン、丼ぶり、雑炊など、調理のしかたでもまったく違う美味しさが楽しめる。炊き方や使うお米の種類によっても、食感や風味が大きく変わるのも、ごはんの面白さだ。例えば、固めに炊けば噛みごたえがあって満足感が増すし、やわらかめに炊けばほっとするような優しい味わいになる。最近では雑穀米やもち麦を混ぜたごはんにも挑戦してみた。ぷちぷちした食感が楽しく、見た目も少し華やかで、健康への意識も高まるように感じる。

これまで当たり前のように食べてきたごはん。しかし、朝食を変えたことをきっかけに、その魅力に改めて気づくことができた。飽きない味、体を支える力、どんな料理にも合う優しさ。ごはんは、毎日を支えてくれていたんだと感じた。もし朝食をごはんに変えていなかったら、こんなにお米の魅力には気づいていなかったかもしれない。

私のように、朝食をパンからごはんに変えるだけでも、毎日の気分や集中力が変わる人がいるかもしれない。朝食で食べるごはんは、体にエネルギーをくれるだけでなく、心の準備も整えてくれるような気がする。当たり前のように毎日の食卓に並ぶごはんだけ、その存在はとて大きい。ごはんは、昔から日本人の食事を支えてきた、なくてはならない食べ物だと思う。どんなおかずにも寄り添い、飽きることなく毎日食べられるのは、ごはんならではの魅力だ。便利な食べ物が増えた今の時代だからこそ、改めてその良さを見直していきたい。どこか懐かしくて安心できる味なのに、食べ方によって新しい発見もある。私はこれからも、そんなお米の魅力を感じながら、ごはんを大切にしていきたいと思う。

また、自分でおにぎりを作ってみたり、おかずとの組み合わせを考えたりする中で、ごはんは食べるだけじゃなくて、毎日を明るくしてくれるものだと感じた。これから先、大人になっていろいろなことがあっても朝食をしつかり食べて、元気に一日を始められる自分でいたい。そう思わせてくれたのが、ごはんだった。



銅賞作品

一粒の絆

宇和島市立津島中学校 二年

松^{まつ}下^{した}愛^{あい}奈^な

私にとって「ご飯」は、毎日の生活になくはならないものです。起きたての体で食べる朝ご飯、部活動後の疲れた体で食べる夜ご飯。どんな時でもご飯を食べると気持ちが悪くなり、元気が出ます。

私の家では、父が兼業農家をしています。普段は勤めに出ています。春、田んぼに水を入れて苗を植える時。夏、草を取ったり、水の高さを調整したりする時。秋、黄金に輝く稲を刈る時。父はいつも気を使い大変な思いをして育てています。

私は、小学校の行事で、米作りを体験したことがあります。その時、ぬかるんだ田んぼに入るだけで足を取られて転びそうになったり、暑い日差しの中で汗をかいたりしてとても大変でした。私は「ご飯はこんな大変な思いをして作られているんだ」と父の姿を思い浮かべました。

家の稲刈りの時は、家族で手伝います。田んぼいっぱい広がる黄金色の稲が風に揺れる景色はとてもきれいです。稲刈りの作業は重くてとても疲れますが、自分の家で食べるご飯になると思うとやる気が出ます。収穫したばかりのお米を炊いてほおばると、いつものご飯より甘くて、ゆっくりかみしめてしまうほどおいしいです。

「苦労して育てたからこそおいしいんだ」と思います。ご飯は、私たち家族を繋ぐものでもあります。夕食の時間、父たちが育てたお米で炊いたご飯を食べながら、家族でいろいろな話をします。

「今日の米はうまく炊けたな。」

「今日はちょっと固めだな。」
などと、毎日の会話の中に自然にご飯の話題が出ます。勉強や部活で疲れていても、家族と一緒にご飯を食べると、心も体も元気になります。

特に私の心に残っているのは、父が作ってくれたおにぎりです。普段は母が作ってくれますが、ある日父が、

「今日は俺がにぎる。」

と言っておにぎりを作ってくれました。形はいびつで、塩も少し濃かったですが、不思議とすごくおいしかったです。父は、

「自分で育てた米で作るおにぎりは格別だ。」と言い、笑っていました。しかし、その言葉を聞いた時、ご飯にはただの食べ物以上の意味があるように思いました。

学校の給食でもご飯は良く出ますが、家のご飯とはまた違います。家で食べるご飯には、父が田んぼで汗を流した苦労や、家族で過ごす時間が詰まっているのだと思います。だから、私はご飯を残さないようにしています。残すということは、父の苦労や自然の恵みを無駄にすることになると感じるからです。

これから私は、進学したり、就職したりして、将来家を出ることがあると思います。その時でもご飯を食べれば、家族や田んぼの景色を思い出すことと思います。そしてどんなに大変なことがあっても、ご飯を食べるとまた、頑張る気持ちになれるはずで。

「ごはん・お米とわたし」というテーマで考えると、私にとってご飯は、父の努力の結晶であり、家族を繋ぐ大事な存在です。これからも一粒一粒を大切に食べて、感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思っています。

そして、私はこれからもお米を食べる時、作る人のことや自然の大切さを考えながら食べたいと思います。お米を通して、家族や自然、地域の人のつながりの大切さに気付くことができました。私にとっての大きな学びであり、いろいろな人との一つの絆を、お米が作ってくれたと思います。



優秀賞作品

私にとって大切なお米

新居浜市立東中学校 二年

角谷綾香

私は食べることが大好きです。とくに、炊き立ての白ご飯を食べると幸せな気持ちになります。

私は自分の朝ご飯は自分で作ることが多いです。なぜなら、献立や栄養バランスを考えることが楽しいし自分で作ることによって、食事の満足度も高まるからです。私の朝ご飯の主食で一番好きなのはおにぎりです。とくに好きな具は、塩こんぶとツナやかつお節などが入っているおにぎりです。炊き立ての白ご飯と混ぜて握ると最高です。

今年はお米の問題をニュースなどでたくさん見ました。

そこで、備蓄米について調べました。備蓄米とは不作や災害、国際的な食料危機など不測の事態に備えて国が一定量を買入れ入れて保管しているお米だそうです。これにより食料供給の安全や米価の安量化を図ることを目的としているそうです。私は、なぜ備蓄米を放出するのかを調べました。最近、お米の価格が高騰しているため政府は備蓄米を市場に放出することで価格を安定させようとしているそうです。特に、価格高騰が続いている状況を受けて政府は備蓄米の放出を積極的に進めているそうです。備蓄米の放出方法については、価格抑制のために、政府が価格を決めて直接小売業者に販売する「随意契約」という方法も導入されているそうです。これにより多くの消費者が手頃な価格でお米を手でできるようになることが期待されています。私は備蓄米などの存在はニュースで見えるまで知りませんでした。色々知れて勉強になりました。

私が住んでいる地域では、ニュースより少し遅れて備蓄米がスー

パーに並んでいました。最近、祖父母の家で備蓄米を食べました。祖母に言われるまで備蓄米だと言うことが分かりませんでした。祖母のお米の炊き方が上手なのか、政府のお米の保管の技術が優れているのか、祖父母と一緒にご飯を食べたからなのか、理由は分かりませんがいつもと変わらぬおいしく感じました。

私には、福井県にも祖父母がいて、おもち屋さんを営んでいます。私のお家のお米はいつも福井から送ってもらい、福井県産のお米を食べています。毎年、ゴールデンウィークとお盆には福井に帰省しています。おもち屋さんでは、よもぎもちやいちご大福などが人気商品です。朝早く起きておもち作りをするのが楽しいです。祖父はおもちをついたり丸めたり、祖母はとても熱いおもちを素手でさわったりしてすごいなと思います。つきたてのおもちはとてももちもちでおいしいです。祖父母が高齢なのでおもち屋さんをそろそろやめる話もしていますが、祖父母のおもちが大好きだし一緒に手伝うことも楽しいのでもう少し頑張つてほしいなと思います。

それに、福井で食べるご飯はとてもおいしいです。新鮮な海の幸やもみわかめ、祖母が作る梅干しやらつきょうなど白ご飯に合う食べ物がたくさんあり、とてもおいしいです。久しぶりに会う祖父母たちと食べるご飯は、おいしいし楽しいので次、帰省するのが楽しみです。

私はこの作文を書いて改めてお米の大切さについて学びました。最近のお米問題や農家さんの大変さ、備蓄米についてのことなどたくさん知ることができました。

日本に生まれて、当たり前のように毎日三食おいしいご飯を食べることはとても幸せなことなのだと感じました。これからもご飯を食べるときは、お父さんとお母さん、祖父母や農家さんなどみんなに感謝して、ありがたく思いながらご飯を食べようと思います。毎日、しっかりと「いただきます。」「ごちそうさまでした。」と挨拶をしておいしくご飯をいただきます。みなさんも、毎日のご飯について改めて感謝をして食べてほしいと思いました。



優秀賞作品

僕は米が大好き

宇和島市立城東中学校 一年

なかむらりゅうせい
中村 琉聖

僕の食卓にはいつも、祖父母が作ってくれる米が並んでいる。祖父母は愛媛から遠く離れた富津市で長年米作りをしている。僕は小さいころから、帰省するたびに、祖父母の米作りの様子を見てきた。辛いときも苦しいときも、祖父母は米を作っているのだ。

今年に入り、米がないということにニュースで目にするが多くなった。そして、最近になって、政府の政策で、備蓄米や外国産の米が、安く流通するようになった。そんな中でも、祖父母はわざわざ愛媛まで米を届けてくれる。感謝しかない。

春、まだ少し寒い中、祖父母は黙々と作業をしている。田んぼを耕したり、水留めをしたりする準備期間。五月になってようやく田植えに入る。

夏、八月九月に、大切に育ててきた稲を刈る。二面に広がる黄金色は、とてつもなく美しい。

秋、稲を刈って息つく暇もなく、夏にたくさん使った機械の掃除。十一月には、来年の田植えのために、田起こしをする。汗水たらして作られた米が、僕の家の食卓に並ぶ。その米は、店で売られている米の何千倍もおいしい。

僕は、米のおいしさの理由を知りたくて、祖父にインタビューを試してみた。まず、一番辛いことは何か聞いてみた。「機械費が高い。肥料や農薬の費用がかかること。」と言っていた。僕は「作業が辛い。」「しんどい。」など肉体的なことだと思っていたけれど、意外にもお金のことだった。長い間米作りをしてきたからなのかと思った。次に、大変なことについて聞いた。すると、祖父は、「天候が安定し

ないことや、虫がいることなど、自然に左右されること。」だと言った。工夫していることは、「水を切らさないこと。」と言っていた。改めて、米作りは大変なんだということも思った。

次に、僕は今と昔の違いを聞いてみた。すると、「一番大きいのは機械化が進んで、作業する面積が増えたことだ。」とのことだったので、機械化についてどう思っているのかを聞いてみた。すると、「必要不可欠ではあるが、その機械費が増えたことによった利益が下がってしまったって、とても残念。」ということだった。機械化はすごいのだと思った。僕たちが使っているスマートフォンが日々進化していくように、農作業にも機械化が進んでいるのだなと思った。

そして、最後に一番気になっていた「備蓄米」についても聞いてみた。すると「あれは店に出すべきではない。決しておいしいものではないし、好んで食べるものでもない。」と言っていた。政府の政策についても、「あの備蓄米をうまく売ったのはとてもすごいとは思いますが、私たちは食べるものが何もないわけではないのだから、この政策については、よいとは言えない。」とのことだった。僕は備蓄米を食べたことはないけれど、祖父の言うことは正しいのではないかと思う。備蓄米について調べてみると、備蓄米とはその名の通り、災害時などのために、政府が計画的に保管している米のことである。実際にコロナ禍や、東日本大震災の際には、大活躍をしていたようだ。そんなものを店に出して、もし今災害が起こったときに、米は被害者にいきわたるのかと思う。

この夏も帰省して、あたりに広がる稲を見た。僕が米農家を継ぐのかどうかはまだわからない。しかし、幼いころから見てきたこの美しい黄金色、祖父の米に対する真剣な向き合い方や思い、おいしい米をなくしたくない。米農家になることも、ありかもしれない。心のこもった祖父母の米を通して分かった心の大切さ。それをかみしめながら、今日も僕の家の食卓には、祖父母の米が並んでいる。今日も家族全員でその食卓を囲む。



優秀賞作品

家族のきずなを深めるご飯

西条市立河北中学校 一年

榎^{まき} 珠^{しゅ}菜^な

私は、小さいころからご飯が好きでした。何と言っても白ご飯が大好きです。食事の時も、おかずとお米と一緒に食べずに、おかずだけ先に食べて、好きなご飯は最後に味わって食べています。そして、私が毎日食べているお米は、祖父が作ったものです。やっぱり、祖父の作ったお米は、一番美味しいと思っています。

祖父に、お米作りについて聞いてみました。六月には田植えをして、十月はじめに収穫します。その間の世話だけでなく、田植え前の準備や、収穫後の後始末など、一年中かけて、美味しいお米ができるように、世話をしていることが分かりました。その中でもいちばん大変なことは、水の管理だそうです。とくに山間地は、その水管理が難しく、苦労するそうです。今年も雨が降らず、気温も高かったのですが、ちゃんとお米が取れるかどうか心配しています。祖父のお米が、いつものように食べられることを期待しています。

三年前、祖父が心臓の手術をしたことがありました。具合が悪くなったのが秋ごろで、その年の収穫は、父やおじが手伝いましたが、いつものように仕事が進まず、次の年の準備もできないままで、お米が不足した状況になりました。その時に、スーパーに母とお米を買いに行ったことがあり、初めてお米の値段を知ってびっくりしたことを覚えています。最近、お米のことが話題になっていて、あるの、買い物に行った時に値段を見ることがありますが、とても高いと感じます。改めて、味はもちろんのこと、祖父が毎年苦

勞して作ってくれているお米に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

我が家のイベントとして、みんなのお誕生日会を、祖父母の家で行っています。おじさんたちも参加しているので、だいたい月に一回行っています。一月は曾祖母と祖父。九十二歳になる曾祖母は、まだまだ元気で、ご飯もたくさん食べています。祖父はお米作りの名人で、私達家族にとって、大切な存在です。三月は去年生まれたいとこ。まだみんなと一緒にの食事はできませんが、来年の誕生日会を楽しみにしています。四月は兄。一番よく食べます。どんどん成長し、父の身長も抜きました。五月は私。ご飯が大好きな私もただいま成長中です。六月は祖母とおじ。いつも食事を準備してくれる祖母と、祖母の作ったご飯を美味しい、美味しいと言って食べるおじ。このころからおじは、ご飯が大好きで、もりもり食べていたそうです。七月は弟。今年小学生になり、去年より食べる量が増えました。九月はおば。母になって、毎日のご飯作りをがんばっています。十月が、父と母。調味料を工夫してチャーハン作りにこだわる父。井ものを作るのが上手な母。母の作る親子丼は大好きです。十二月には、クリスマス会を行います。みんなで話しながら食べるご飯は、普段より美味しく感じて、食も進みます。食事を通して、家族のきずなも深まるような気がしています。毎月のお誕生日会がとても楽しみです。

ご飯は、私たちが生きていくうえで、とても大切なものです。そして、ご飯には、単なる食事以外にも、人と人の心をつなぐ、見えない力があります。これからも、食事を通して家族や友達とのきずなを深めていきたいなと思います。私は、これからの人生でもたくさんご飯を食べると思います。ご飯を食べる時には、必ず「いただきます」「ごちそうさま。」を言い、お米と、お米を作ってくれた人に感謝して、美味しいご飯を食べたいと思います。

第50回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画愛媛県コンクール

図画部門作品



図画部門 第1部
(小学1~3年生)



金賞

おにぎりだいすき

やま した あが さ
山 下 有華紗
伊方町立九町小学校 1年



銀賞

たきたてごはん
おいしいよ

うえ だ いつき
上 田 樹
伊方町立九町小学校 1年



銅賞

おいしい おにぎり

まつ うら まな
松 浦 愛
西予市立宇和町小学校 2年



優秀賞

お米を外でおいしく
みんなで食べよう

やま もと かん た
山 本 勲 太
松山市立椿小学校 3年



優秀賞

おにぎり だいすき!

くり た けい し
栗 田 敬 至
松山市立味酒小学校 1年



優秀賞

おにぎり だいすき

まつ うら あん
松 浦 杏
西予市立宇和町小学校 1年



図画部門 第2部
(小学4～6年生)



金賞

米、うまっ！

もり ゆき き
森 結 希

松山市立生石小学校 6年



銀賞

ぼくの大好きな
おにぎり

まつ うら おう すけ
松 浦 旺 佑

西予市立宇和町小学校 4年



銅賞

友といっしょに
未来のお米作り

そが へ み お
曾我部 心 緒

今治市立清水小学校 5年



優秀賞

私の晩ご飯

いま むら いく と
今 村 郁 斗

松山市立椿小学校 6年



優秀賞

家族みんなで田植えをした日

や の み か こ
矢 野 実 楓 子

松山市立和気小学校 4年



優秀賞

わたしとお米

ふく かわ いち か
福 川 苺 佳

西予市立宇和町小学校 4年



図画部門 第3部
(中学1～3年生)



金賞・県知事賞

食べる喜び

ふくもと さ え
福本 沙 恵

東温市立重信中学校 2年



銀賞

遠足の思い出

やぶき らん な
矢 蒼 蘭 奈

今治市立日吉中学校 3年



銅賞

お米とわたしたちとの
つながり

あべ かな た
阿部 彼方

今治市立伯方中学校 3年



優秀賞

今日のお昼

まつ おか ゆ き
松 岡 由 季

西条市立西条南中学校 3年



優秀賞

えひめのお米

ふじ わら ひ いろ
藤 原 日 彩

今治市立北郷中学校 3年



優秀賞

もりもりご飯が
食べれるのは?!

やま もと たく と
山 本 拓 燈

松山市立三津浜中学校 3年